

平成 25 年度 収集情報

項 目	内 容
テーマ	サポウイルスによる急性胃腸炎の増加について
調査目的や背景	<p>近年、サポウイルスによる急性胃腸炎の報告数が増加傾向にある。従来、食中毒検査等において、ノロウイルス及びその他の食中毒菌が検出されない場合には原因不明の食中毒又は感染症として扱われてきた事例が多かった。しかし、近年の検査法の確立・普及により、サポウイルスを原因とする胃腸炎が解明されるようになったことも、報告数の増加に影響しているものと推定される。</p> <p>検出体制の整備により、サポウイルスの検査を実施している自治体及び医療機関も増加しつつあると思われるが、一般的にはノロウイルスと同様のレベルには周知されていないと考えられる。</p> <p>サポウイルスは、かつては乳幼児を中心とした散発的な胃腸炎の起因ウイルスと考えられてきた。しかし、最近では、乳幼児施設に限らず、小学校や高齢者施設における集団胃腸炎事例がみられる他、調理従事者の関与が推定される食中毒事例が報告されるなど、年齢層を問わず発症者が確認されている。</p> <p>感染経路、症状、予防法等はノロウイルスの場合と同様と考えられる。都民、調理従事者、食品関係者等への注意喚起を促すことを目的に、サポウイルス胃腸炎に関する情報提供を行う必要があると考えられる。</p>
調査結果	<p>【サポウイルスによる食中毒発生状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国 <p>平成 22 年・・・2 件(患者 166 人) 平成 23 年・・・5 件 (109 人) 平成 24 年・・・10 件 (329 人) 平成 25 年・・・15 件 (445 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都 <p>平成 24 年・・・0 件 平成 25 年・・・2 件</p> <p>【感染経路】</p> <p>サポウイルスは糞口感染によるヒト→ヒト感染、あるいは汚染された食べ物や水による感染であると考えられる。食品では日本のアサリ及び生食用のカキから検出されている。</p> <p>十分な加熱調理により失活させることができるが、汚染された食材による手や調理器具などから生食用の食材への汚染、またウイルスを保有する</p>

	<p>調理従事者による集団食中毒の可能性はある。</p> <p>【潜伏期間】 12～48 時間</p> <p>【症状】 嘔吐・下痢を主徴とした胃腸炎。症状からはノロウイルスと区別することは困難である。ウイルスは発症後 2～4 週間にわたり患者糞便中に排泄される。</p> <p>【予防】：ノロウイルスと同様な方法である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な手洗い ・食品中心部まで 85℃、1 分以上の加熱調理 (大量調理施設衛生管理マニュアルの改正案では 90℃、90 秒以上となっています) ・器具類、施設の消毒 (0.02%次亜塩素酸による) ・患者の嘔吐物及び排泄物の適切な処理 (0.1%次亜塩素酸による) ・調理従事者の体調管理 <p>【検査法】 かつては電子顕微鏡による形態学的な検査が実施されていたが、現在はノロウイルス同様にリアルタイム RT-PCR 法及び PCR 法が開発・普及されたことにより、サポウイルスの検査は従来より広い範囲で実施されつつあると考えられる。</p>
<p>添付資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平成 25 年食中毒発生事例 (厚生労働省平成 25 年食中毒発生事例 (速報) より抜粋) 2) 平成 24 年食中毒発生事例 (厚生労働省平成 24 年食中毒発生事例より抜粋) 3) 平成 20 年～23 年食中毒発生事例 (厚生労働省平成 20 年～23 年食中毒発生事例より抜粋) 4) 平成 25 年東京都食中毒事件(サポウイルスによる)の一覧 5) 検出された S R S V の内訳 2008/09～2012/13 シーズン (I A S R 病原微生物検出情報) 6) 週別ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス検出報告数、2012/13 シーズン (I A S R 病原微生物検出情報) 7) 都道府県別ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス検出報告状況 2012/13 シーズン (I A S R 病原微生物検出情報) 8) 年別ウイルス検出状況、由来ヒト：胃腸炎ウイルス、2009～2013 (I A S R 病原微生物検出情報) 9) サポウイルス (平成 22 年度食品安全総合調査「食品により媒介される感染症等に関する文献調査報告書」より抜粋) 10) 食品媒介事例を中心としたノロウイルス、サポウイルスの塩基配列情報および疫学情報の共有化の取り組み (I A S R Vol. . 32p. 354-355)

:2011年12月号)

- 11)食品の関与が推定される集団胃腸炎におけるウイルス検索
「食品中の病原ウイルスのリスク管理に関する研究」総合研究協力
報告（平成22～24年度）